

並木幼稚園だより

【建学の精神】
感性の豊かな「日本の心」を
持った真の国際人の育成

令和5年度 5月号
学校法人志賀学園並木幼稚園
発行者：園長 渡部栄城

こいのぼりの季節である。こいのぼりで思い出したネタがあります。昨年、したためておいたものです。

私としては、大発見でした！

何が大発見かというと、1年間の中で、園児の多くが歓声を上げるときが、わかったからです。まとめられたからです。

その年、初めて目にして、多くの園児が、「おお〜！」「オー！」「おっ！」「あっ！」など歓声を上げるとき。

こいのぼりが、園庭の上に、飾ってあったとき。

プールが、準備された時。出てきたとき。

初雪を見た時。

以上、3つは、以前から、昔から（？）、毎年、毎年、繰り返されてきたように思う。



改めて、こいのぼりの季節です。天高く、大空を背におよぐこいのぼりを見ていると、こころがすっかり解放されたような気がします。どこまでも、広がっていくような気がします。なにか大きなことができるような気がします。……。私だけでしょうか。

令和5年度がスタートして約1ヵ月が過ぎました。ちょっと振り返ってみます。



【進級式】6日（木）新すみれ組さんと新さくら組さんで行いました。新たな意欲が、ギンギンと伝わってきました。



【入園式】10日（月）きちんとお座りができて、年長さんのお言葉や先生方のパフォーマンスに集中していました。



【クラス見学会】17（月）～19日（水）入園・進級し初めての見学でしたが、ちょっぴり成長した様子をご覧頂けましたか。



【給食開始】17日（月）ばら組のお友達は、緊張しながらも、多くのお友達がおかわりをしていました。



【お迎えする会】24日（月）幼稚園生活を、みんなで楽しく過ごせるような寸劇を、先生方が熱演しました。



【お誕生会】25日（火）月1回お誕生会があります。お返事をしたり、自己紹介したり、将来の夢を発表したりします。

さて、進級式の様子もホームページにアップしましたが、そこに、「園長が話した大切なことは、お子様にお聞きください」と記しました。いかがだったでしょうか。それこそ大切なことですので、ここに改めて記します。

「元気にご挨拶。なかよく遊ぶ。きちんと後片付け。悪いことは、絶対しない、いいことは、いっぱいやる。すみれ組さんは、トイレでスリッパを使うようになるので、きちんと並べてください。さくら組さんは、すみれ組の時よりもきれいに並べましょう。」

ちなみに、これまでも折に触れ話してきたことなので、私が「げんきに」というと「ごあいさつ」、「なかよく」というと「あそぶ」と、けっこう多くのお友達が元気に言いました。けっこう浸透してきたことが分かり、嬉しかったです。

話は変わります。4月3日は、学校法人志賀学園の辞令交付式でした。認定こども園 平第一幼稚園を会場に、認定こども園 平第一幼稚園、久ノ浜こども園、松の実こども園、螢保育園、梅香保育園、並木幼稚園の職員が約100名出席しました。そこで、私は、代表園長挨拶として約7分の時間が与えられました。1か月くらい前に何を話すか決めました。しかし、1週間前のある番組を視て、急遽変えることにしました。そのお話は、いずれ機会があったときとしまして、最初のネタについて記します。

世の中には、いろいろなことわざ、励ましの言葉がありますが、これまで生きてきて、私が一番自分に言い聞かせた言葉、使った言葉、思わず出てくる言葉を紹介します。

それは、「一つずつ」「急がば回れ」「灯台下暗し」です。

特に困ったときは、「一つずつ」です。私の場合、だいたい困る場合は、一気にたくさんの仕事、やるべきことができたときでした。そんなときは、全体を見渡し、次に、まずやらなければならないことを決め、まずは、それにすぐに取り組む、ということでした。当たり前のことですが、多くの方がやってらっしゃることですが、まずは、自分を困惑の状態から脱出させるために、自分に「一つずつ」と言って、一つのことに集中するのです。そうすると、不思議なことに、たった一つのことをやりはじめただけなのに、気持ちは、ぐっと楽になるのです。悩んでいる時間、困っている時間をできるだけ短く消化できるのです。精神的に、とってもよくなるのです。

「急がば回れ」は、特に焦っているときに、自分に言い聞かせます。ここで、じっくり、きちんとやった方が、失敗は少なくなる。焦ってやって、またやり直しになった方が、却って困る。たとえ時間がかかったとしても、一つ一つをきちんとやっていった方が、結果的には、短時間となる。

「灯台下暗し」。これは、これまでを振り返って、けっこう、そうだったよなあ、当てはまることが多いことに感心するのです。実際の探し物もそうですが、「幸福感」「夢」も灯台下暗しだったりしたのでした。

時間が余った時のネタも用意しておきました。これは、何年か前の辞令交付式で話したのですが、新人さんもけっこういるので、また、これこそ、結構役に立ったので、何度でもと思い、いざというときのためのものでした。

私が、社会人になって4年目、2つ目の学校の校長先生が4月の第1回目の職員会議で話されたことですが、私を含め、その職場にいた若い5名の教師が、いずれも校長になってから職員会議で引用させていただいてる言葉です。覚えやすく、忘れにくく、そして何よりも仕事をするうえで、社会人として大切であり、役だった言葉でした。

それは、「みつつのめ」です。

「はやめ、けじめ、たしかめ」の「三つのめ」です。

未だに、「たしかめ」は、なかなか、100%とはいきませんが、いやいや、5割を下回るかもしれないませんが、「はやめ」は、けっこうできるようになりました。8割ぐらひは、できるようになったのでしょうか。早く取り掛かることにより、多くの難問、課題を克服することができました。大惨事（大げさですが）に至らなかったことが多々ありました。「けじめ」は、数字は出てきませんが、それなりにできるようになったと思います。けじめをつけることで、その後のことがよくなっていったことが、これまた多々あったように思います。

以上、少しでも何かの参考になったりお役に立ったりしましたら幸いです。